

PI-480a 組織 DNA プロトコール

Proteinase K 処理されたショウジョウバエからの Genomic DNA 分離



クラボウ PI-480aでは、一度に48サンプルのDNAの自動分離精製が可能です。本データではProteinase Kで消化されたショウジョウバエ組織からのDNA分離精製例を示します。専用にデザインされた8連チューブユニットを用いることで、分離精製の作業を容易に行うことが可能です。



実験結果

サンプル	Proteinase K で消化されたショウジョウバエ
サンプル量	ショウジョウバエ 10 匹 / サンプル
分離装置	PI-480a 組織 DNA プロトコール
試薬キット	NR-201
と消耗品	Sample tube, PT-8000; DNA tube, NT-8000
精製原理	組織の溶解: Proteinase K による消化(前処理) 精製: Phenol 系試薬による蛋白変性 DNA 回収: アルコールによる DNA 沈澱

精製工程 前処理:

終濃度 0.2 mg/ml の Proteinase K, 50-55℃にて 1 時間

反応溶液の条件は下記の通りです。

0.25 ml 0.4 mg/ml Proteinase K 含有プロテアーゼ溶解試薬(No.2, NR-2025)

0.25 ml 組織用懸濁試薬 (No.10, NR-10025)

合計 0.5 ml

PI-480aによる DNA 分離精製:

Step1. 蛋白変性と不純物除去

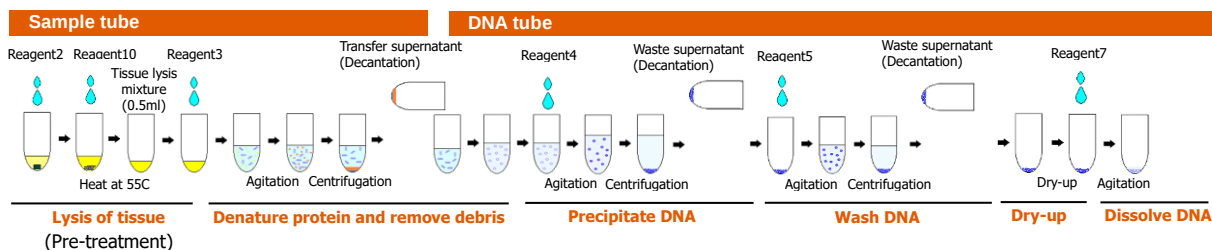
Step2. DNA 沈澱

Step3. DNA 洗浄

Step4. 乾燥

Step5. DNA 溶解試薬(クラボウ, NR-7025)による DNA の溶解 (溶解液量 100 μ l)

組織 DNA プロトコルのワークフロー



分離時間 48 サンプル: 2.7 hr

48 サンプル: 2.1 hr (オプションヒーター搭載時)

分析方法

- 収量と純度** 分光光度計により各々の DNA 溶液の吸光度を測定。
- 計算** DNA 収量は picogreen 蛍光試薬により測定した。
DNA 純度は A260/A280 の値より確認
- 電気泳動** それぞれ DNA 溶液 8 μ l を 0.7% agarose gel にて電気泳動を行った

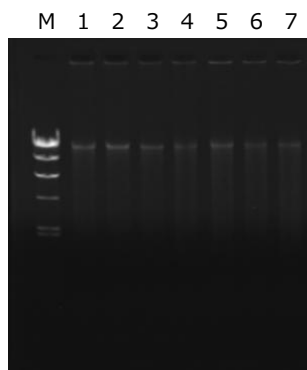
結果

収量と純度

サンプル	収量 (μ g)	純度(A260/A280)	純度(A260/A230)
	2.8~4.5	2.1~2.2	2.2

収量は picogreen 蛍光試薬による DNA 測定値です

電気泳動



シウジョウバエ 10 匹から分離精製された DNA

M : λ Hind III size maker

1~7 : シウジョウバエ由来 DNA

100 μ l の溶解液より 8 μ l を泳動

製品情報

分離装置 PI-480a
組織 DNA プロトコル

試薬キット 組織 DNA 試薬 kit NR-201 (approx. for 650 preps)

試薬名称	試薬番号 (コード)	入数
プロテアーゼ溶解試薬	2 (NR-2025)	1
フェノール試薬	3 (NR-3025)	1
沈澱試薬	4 (NR-4050)	1
洗浄試薬	5 (NR-5050)	3
DNA 溶解試薬	7 (NR-7025)	1
組織用懸濁試薬	10 (NR-10025)	1

専用チューブユニット サンプルチューブユニット: PT-8000 (8-hole, blue, 64 個)
DNA チューブユニット: NT-8000 (8-hole, white, 64 個)

本資料に記載されている商品名は、各社の商標または登録商標です。

倉敷紡績株式会社

〒572-0823

大阪府寝屋川市下木田町 14-30

クラブウ先進技術センター

電話: 072-820-3079

FAX: 072-820-3095